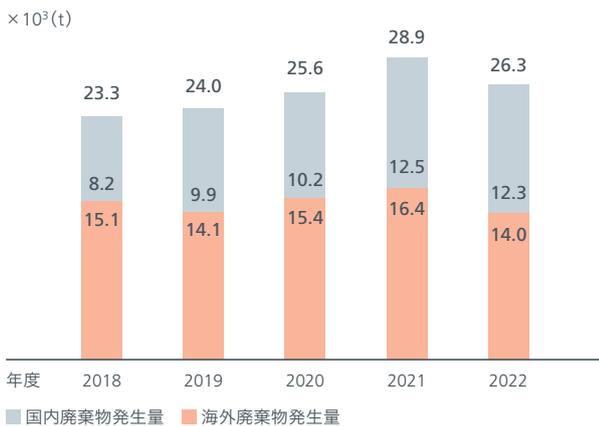


## 資源の有効活用と循環型社会構築への貢献

### 廃棄物の取り組み

2022年度におけるグループ全体の廃棄物発生量は、2021年度の28.9千tから26.3千tに減少しました。有価物を含む廃棄物の内訳は、廃プラスチック類、廃油、廃液、汚泥が大部分を占めています。太陽誘電では、引き続き、廃棄物発生量を削減し、廃棄物の社内リサイクル率を高めるとともに、海外拠点における再資源化を強化していきます。

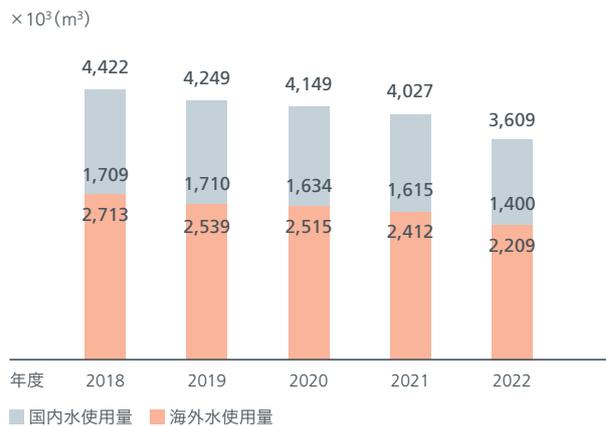
廃棄物発生量



### 水資源の取り組み

2022年度のグループ全体の水使用量は、2021年度の4,027千m<sup>3</sup>から3,609千m<sup>3</sup>に減少しました。国内拠点、海外拠点ともに使用量を減少させることができました。取水量については、地方自治体の水道(または他の水道施設から)の取水が3,283千m<sup>3</sup>、淡水・地下水からの取水が326千m<sup>3</sup>となりました。水のリサイクル量は556千m<sup>3</sup>でした。

水使用量



取水量 (× 10 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )	
地方自治体の水道 (または他の水道施設から)	3,283
淡水・地下水	326

#### 2022年度の取り組み例

##### 生産方法変更による廃液の削減

[新潟太陽誘電、韓国慶南太陽誘電、TAIYO YUDEN (SARAWAK)]

電子部品の生産プロセスの一部では、生産設備の清掃に溶剤を使用しており、清掃に使用した後の溶剤は廃液として適切に処理しています。生産方法を見直し、清掃に使用する溶剤の量を減らすことで、廃液発生量の削減につなげることができました。今回の生産方法変更などによって削減した廃液の排出量は384t/年でした。

##### 廃水リサイクルによる節水

[新潟太陽誘電]

電子部品を生産する工程では様々なプロセスで水を使用しています。設備の冷却水を回収・処理し、生産工程で再利用することで、使用する水を削減できました。

削減した水は11,331t/年でした。